

令和6年10月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

販売価格や売上は増加している業種が多いが、原材料・エネルギー価格の高騰や最低賃金の大幅な引き上げ等による人件費の上昇を転嫁しきれず、収益が改善していないことから、景況感は横這いが続いている。

深刻な人手不足は、人材確保コストの増加により収益力の足かせとなり、さらに納期や店舗の稼働等の事業活動に制約を来すなど、今後の事業経営への影響を不安視する報告が多く寄せられている。


山口県の主要指標 DI 値（令和6年10月末現在）










※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：5.0% 悪化：27.5% DI 値：▲22.5% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：21.3% 減少：30.0% DI 値：▲8.7% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：10.0% 悪化：31.3% DI 値：▲21.3% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和6年10月末現在）

 30 以上	 30 未満~ 10 以上	 10 未満~ ▲10 以上	 ▲10 未満~ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	---	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲25.0	0.0	▲100.0	▲50.0	▲50.0	12.5	▲33.3	▲25.0
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業	全体
▲20.0	▲42.9	▲33.3	9.1	▲36.4	0.0	▲100.0	▲20.8	
								

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	菓子業界に大きく影響がある最低賃金の引き上げが開始され、労務費が上昇し負担感が大きい。	パン・菓子製造業
	水産加工原料の水揚げ減少、原料価格の高騰が続き、漁業者の廃業が増えている。人手不足が深刻で、人件費が高騰している。売上減少に対して、新商品の企画が重要である。	水産食料品製造業 長門市
	円安が少しずつ回復傾向にあるが、原材料や水道光熱費の高騰、人件費(最低賃金)の上がり幅が大きいため、商品の値上げが追い付かない。冬に向けての準備等が始まるが、今年はなかなか気温が下がらず、準備も微妙な状況。最低賃金が上がり商品の売上が伸びたとしても利益が伴う単価設定にしないと厳しい。経費等の見直し等工夫して利益を出す努力をしている。	水産食料品製造業 下関市
	10月に入り、ようやく気候が安定して売上が伸びている。加えて、同業者の廃業やコロナ前のお客様が復活したことなども関係して大口の注文が相次いでいるが、捌き切れずにやむを得ず断るケースも出てきた。土日祝日に注文が集中するためだが、無理をして受けることはしないようにしている。神社の秋祭りをはじめ、収穫期ならではのイベントが今後は続くので、注文が多い時だからこそ衛生面には気を配ってきたい。	食料品製造業
	10月は全国的に慢性的な米不足となり、農協の概算金が大幅に上昇するなど、売上高の増加が見込める状況となったが、今までの肥料、農薬、燃料代などの上昇分を吸収できるくらいとなるため、利益率については変更が無い。例年に比べ異常な高温日が長く続き、屋外作業について支障が出る等危険な状態が続き、早急な対策が必要となる。衆議院選挙が行われ、自民党と公明党が過半数割れとなり、今後の政局運営の不透明感が増している。国民民主党が主張する給与所得103万円の壁やガソリン税のトリガー条項の復活など、景気向上対策について、与党がいかに協力できるかが今後の課題となっている。地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入など、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。また、日本の発電量に占める化石燃料の利用率約70%という数値も国際社会的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力発電の利用を70%にするなどの改善が必要である。ロシアがウクライナに侵攻して2年以上が経過したが、新たに北朝鮮軍がウクライナの戦線に加わ	精穀・製粉業

	<p>るなど、戦局が更に拡大しそうな状況となっている。中東情勢の悪化に伴う世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。国際的な原油価格が上昇し、それに伴って、肥料価格が前年比 160%アップという驚異的な結果となっている。政府の原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、とくに、ガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。おって、北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。県農林水産部は、輸出に向けたコミュニティを設立するなど、輸出への対応を推進しているので、それに向けた対応も必要となる。</p>	
繊維工業	<p>衆議院選挙の公約では最賃 1,500 円を 6 年以内にとっているが、重要なテーマを選挙用のキャッチフレーズに軽く使用されると困る。</p>	<p>外衣・シャツ製造業</p>
	<p>10 月から値上げしたため、販売価格が上昇。イベント関係も増え、売上が増加した。人手不足は悪化している。</p>	<p>帆布製品製造業</p>
木材・木製品	<p>組合員の平均売上額は、令和 5 年 10 月と比べ 10% の減少。木材需要の回復は無く、製材品の売上げ減少が続き、在庫の増加、設備操業度の低下も続いている状況。</p>	<p>製材業・木製品製造業</p>
印刷	<p>8 月、9 月の受注が少なく、10 月は売上が大幅に減少した。</p>	<p>印刷業 山口市</p>
	<p>コロナが終息してようやく景気が持ち直しつつある状況下、利上げや金融引き締め政策は、再び景気の減退を招きかねない懸念がある。印刷業界は、依然として原材料の高騰が続いており、景気の失速による需要、つまり受注額の落ち込みによる更なる状況の悪化は避けられず、大きな危機感を抱いている状況である。政治や経済の迷走は、国民生活に直接大きく影響し、国際的競争力も弱体化をもたらすこととなるので、今後は安定した政権による安定した政策を期待したい。</p>	<p>印刷業 下関市</p>
窯業・土石製品	<p>令和 7 年 4 月より、セメント価格が 1 トン当たり 2,100 円程度値上げすることが各メーカーから発表されている。また異形鉄筋の値上げについても耳にするようになり、運賃値上げも続いている。先行き不安な状況が続くと感じている。</p>	<p>コンクリート製品製造業 柳井市</p>
	<p>売上は、工業用水用大型管の特需物件で伸びているが、一般工事用の需要は減少している。令和 6 年 1 月に製品の値上げをしたが、10 月に漸く経済調査会の単価に記載され、11 月から実際に公共工事単価値上げとなるため、約 1 年遅れの単価反映となる。この間も、工事を請け負う建設業者からは値上げをした価格で購入してもらっているが、建設業者は県や市の発注者側から値上げ前の価格での精算となるため、建設業者の負担が多い。</p>	<p>コンクリート製品製造業 防府市</p>

	出荷量は、前月比 139%、前年同月比 99%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。一部の地区で値上げの動きがある。	生コンクリート製造業
	散骨の際の粉骨にする作業依頼の問い合わせが増えている。今後作業内容に追加する必要があると思われる。	石工品製造業
	10 月に入り観光シーズン到来だが、残暑が厳しく観光客が減少した。秋の萩焼祭りが小規模で行われ、3 日間ではあったが売上を上げられたことは満足だったが、開催されている事を知らない地元の人も多く、組合でもっと周知させる努力、市の協力を仰ぎながら萩焼を盛り上げていくことが必要と感じる。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	9 月から引き続き、4 年に 1 回の大きなコンビナート定修工事期間となっており、組合企業皆忙しくしている。この時期限りではなく、人材が不足している。	一般機械器具製造業 下松市
	受注量が多く、納期の調整を要請している。一部取引先毎で 8 月後半より受注数量が減少したことにより当社への発注数も減少したが、概ね想定受注量・収益状況となった。県下では、受注状況(工事量)の格差が広がって来ている。人手不足の中、新規雇用者の能力不足が目立ち、外国人労働者が即戦力になっている。輸送費の上昇などが続き、納品価格のアップは受け入れてもらえるが、人手不足による納期遅れが様々な所であって、その影響でどこも困っている。「鉄骨製造業」の分類が経済産業省から認可され、この分野での外国人技能実習生を受け入れることが業種として出来るようになった。最終納品場所が中東が多いので、付近の社会情勢を注視している。	一般機械器具製造業 防府市
	各業種とも当面の事業量を確保し順調であるが、引き続き人材の確保に苦慮している。特に、介護、建設、食品加工については切迫している。中小企業にとって大企業と同じような賃上げをすることは至難の業であり、正規、非正規を問わず日本人材を確保することは困難を極めている。外国人材確保の面でも、低賃金、円安の影響は大きく、特にベトナムでは高賃金の韓国への希望が高い。また、簡易な手続きで行ける台湾の人気も高くなっている。世界各国との人材確保競争は厳しくなっており、引き続き日本が選ばれることは厳しいと考えられる。従って、賃金対応のみならず早急に多文化共生社会づくりへの対応による生活環境、文化環境、教育環境等の日本の魅力づくりに取り組むとともに、定住策に対する国民のコンセンサスが求められる。当面、受け入れ国の多様化で人材確保をすることで対応せざるを得ないが、ミャンマー、バングラディシュ等の送り出し国においては政情不安がありあまり期待できない。今後は多数の人口を抱えるインドネシア、	一般機械器具製造業 宇部市

	<p>インドからの受け入れが多くなることが想定されるが、現状の賃金環境が継続するといずれは行き詰ることが想定される。また、国内での競争も激しく、特にベトナムでは低賃金の地方の企業で募集しても人が集まりにくく苦慮しているのが実情である。特定技能制度の下、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。</p> <p>大きく好転する傾向は、今のところ見受けられない。</p> <p>前月同様であり変化はない。令和7年1月に外国人技能実習生が2名入国予定。「工場板金職種」組合として登録支援機関の許可が下りた。最近 SNS(Facebook)にて実習生への闇バイトが横行していると話題になっている。Facebook は個人管理になるので、どのように防ぐべきかと考えている。</p>	
		一般機械器具製造業 下関市
輸送機器	<p>鉄道車両関係の受注量は2024年度下期以降減少となり、2025年4月からは大幅な受注減の見通し。2026年度下期から台湾新幹線の受注見込みがあるものの確定までは至っていない。人件費や原材料費・電気料等の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測よりも大幅に受注量が減少し低位で推移しているが、2025年度前半に復調する見通しが多少ずれ込む可能性がある。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>海苔以外の保管状況は良好である。海苔については2年連続の不作及び買い付けの価格高により、入庫が減少していたが、出庫は例年と変わっていない。10月末時点で過去にない程在庫数が少ない状況となっている。</p>	乾物卸売業
	<p>漁港の水揚げが前年を下回り、売上も前年を下回った。各種価格高騰の中、販売量が少ない状態で、収益が改善せず、厳しい状態である。今年も「第42回下関さかな祭」が県、市、商工会議所他水産関係団体が協力して開催される。「ふく鍋・くじら鍋・あんこう鍋」はすぐに完売するほど一般客に人気だが、祭りの発足当時ほどの出店者や販売商品数がなく、売上もなかなか上がらない状況である。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>衆議院選挙結果の影響が、「103万円の壁」と言われているが、事業主負担が増えることを気にかける意見がある。</p>	各種商品卸売業 防府市
	<p>仕入価格が上がり、収益に影響がある。</p>	各種商品卸売業 山口市
	<p>従業員の高齢化に伴い、これから先、若い人材の確保が問題になってくると予想される。</p>	各種商品卸売業 下関市
小売業	<p>売上状況は前年に比べて105%の微増。各メーカーから新商品等が発売され、在庫が増えてきている。メーカーによっては古い商品の回収が少ないため在庫品が増加し、そのため返済期日を延ばすという話も出ている。コロナ禍で、お客様の化粧品や施術への志向が変化したため、</p>	化粧品小売業

	最近では全国的に店舗を改装する専門店が増加しており、改装に伴い主力ブランドの魅力を前面に出すコーナー作りも進んでいる。	
	令和6年10月の売上状況は前年同月比13%減少。人手不足により店舗数が減少していることと店休日を設けたことにより営業日が1日減少していることが要因。10月前半と比較して後半は新店舗が稼働し売上は回復傾向。しかし、昨年同等の営業日が確保できなくなっているほど人手不足の影響が大きく、収益の見通しが厳しい状況が続いている。	各種商品小売業 萩市
	10月の供給高は前年比102.5%、来店者数93.4%。引き続き、猛暑と台風の影響で、野菜の入荷が不安定となり、市場は高値が続いている。	各種商品小売業 下関市
商店街	10月に入っても残暑は続いたが、祭りやイベントなど季節の行事が動き始めると消費市場は刺激され、衣食住ともに動き始める時期でもあり、収支はやや上向き。しかし業種業態によってはECへ流れた消費を取り戻せず苦戦は続く。また、選挙が始まると消費は一時的に止まるので、今回も同様であった。この先の景気回復も望めそうにない。	岩国市
	10月はイベントも多く、ハロウィンや蚤の市が開催され、商店街としては、ガラポン抽選会などを実施し盛り上がった。多くの来客に恵まれ大盛況に終わったので、イベント開催数も増やしていきたい。	周南市
	青果業は野菜・果物とも不作で入荷量が例年に比べて減少、価格も大幅に高く、利益率が低下している。資金繰りも悪化している事業者が多いと思われる。	山口市
	依然として人通りはなく、消費も低迷している。	宇部市
	当商店街で、秋のイベントが2事業開催し、来客数は多かったが、売上は業種によりまばらであった。飲食店は売上が増加した。	萩市
	10月2日にプレミアム商品券の販売を行い、1時間で完売した。年末まで有効期限があるので、商店街での買い物に使っていただき活気を取り戻したい。「ぜひ来年も！」との声が多数上がっているが、組合のみでは実施出来ないの、来年度も補助金があることを祈るばかりである。	下関市
サービス業	例年通りで推移している。	美容業
	物価高騰により、来店サイクルが長くなっている。	理容業

	<p>山口県の令和6年9月の新車新規登録台数は、登録車3,359台で対前年同月比102.9%、軽自動車は2,755台で対前年同月比98.9%と全体で101.1%となった。全国においても101.4%となった。9月は半期の決算月ということもあったが、全体として僅かながら回復傾向というところ。軽自動車の回復が今ひとつという状況にあるが、一部メーカーの新車生産再開が順調な点も含め今後に期待する。「OBD検査」が10月から実施されたが、検査対象車両の入庫台数がまだ少なく大きな混乱もなく、まずまずの滑り出しの状況にある。他方、検査対応の環境を整えるために対象検査機器購入補助金（国交省が実施）の申請10月30日時点で99%の消化率にあり3ヶ月で終了間近の状況にあるが、次年度も国交省はこの制度を継続することから検査対応環境整備も一層進むと思われる。国交省も新しい検査について料金等に関する広報も行っており、今後検査手数料の設定が進む状況にあるためこれらに関する動向を注視したい。</p>	自動車整備業
	<p>先月の傾向が続き、対前年比で、こども会員は微減だが、成人会員は増加したので、売上に変化はない。</p>	スポーツ・健康教授業
	<p>10月後半から気温が下がり、少しずつ衣替えが進み、需要が増えてきたように思う。前年比で、値上げしている事業所が多く、売上が増加した事業所も少なくはないが、クリーニング点数自体が業界全体で低下傾向にあり、また、物価全般の値上げによってクリーニング代を節約する消費者も多いので先行き不安が残る。</p>	普通洗濯業
	<p>年末にむけて、忘年会の予約も入った。引き続きスタッフの確保に注力していく。</p>	飲食業
	<p>売上、宿泊人員とも昨年同月を上回った。インバウンドは昨年同月比で135.9%と好調に推移した。内訳は、欧米135.9%、東アジア120%であった。修学旅行及びスポーツ大会関連は、49%、32.1%と前年割れの状況。</p>	旅館業 山口市
	<p>夏の暑さからは解放されたが入浴客数は10%の減少となり、売上高は5%の減少となった。売店部門の縮小により総売上高は10%の減少となった。人件費の削減案で正社員をパート従業員として時間給としたが、最低賃金の上昇により総人件費の削減は微少となった。燃料費の高騰が電気代、加熱費に大きく影響して営業損失の縮小に至っていない。</p>	旅館業 長門市
	<p>客室の稼働率が上がったが、観光客より工事関係者が増えた模様。ニューヨークタイムズに選ばれたが、インバウンド客は増えていない。人員に関してはフロント業務等は補充できているが、清掃等の裏方業務は不足している。</p>	旅館業 下関市

建設業	中電への工事申請 108 件(当支部 98 件)、前年同月 210 件(同 182 件)。太陽光発電への申請 34 件(前年 68 件)、オール電化申請 47 件(前年 108 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 14 件(前年 11 件)であった。	電気工事
	左官工事量、左官技能者数ともに 30 年前と比較して 7 割減少している。物価が上昇し、景気も回復の方向に向かっていると思われるが、業界規模の回復は遠いと予想される。	左官工事業
	年度当初に受注工事の工期完了時期が近づき、組合員は皆、追い込みで忙しくしている。最近、押し込み強盗等の報道が多く、防犯意識を高めないといけない。組合事務局としても危機感を持っている。	管工事業
	手持ち工事量が減少しており見積物件も非常に少ない。銀行金利が上がり何もかもが値上がりする中、鉄骨以外のすべての業種も値上がりし総工事費の上昇が大きい。計画の見直し・延期・中止が増えている。全体的に工事の動きが悪く、年明けから動き出す案件があっても計画通りに進むのか不安視している。先の仕事の見通しが立たず不安が募るばかりである。	鉄骨・鉄筋工事業
	実質賃金が賃上げに追いつかず、国民生活は苦しくなっている。スーパー等で買い物をすると最近の物価高騰がはっきりと窺える。建設業界も依然として景気は芳しくなく、各種高騰分が価格に転嫁できていない。	一般土木工事業 柳井市
	10 月の受注高は、対前年同月比 249.7%。今年度の累計では対前比 186.8%。5,500 万円超の工事が 2 件と、1,000 万円～4,700 万円の工事が多数あった。	一般土木工事業 萩市
	上半期の公共工事発注高は例年の 8 割であり、第 3 四半期の早期発注を望む。	一般土木工事業 長門市
運輸業	この 2,3 ヶ月は、軽油の値段が 1 円値上がりしただけで、何の変化もない状況が続いている。運送業界の苦しい状況はいつになったら改善されるだろうか。依然として人手不足、軽油の高値、運賃の値上げ止まりで悩む毎日である。	一般貨物自動車運送業 下松市
	倉庫保管の引き合いがかなり増加してきており、それに伴い、倉庫へ、もしくは倉庫からの運送も増加している。製造、化学原料関係が伸びている模様。人員は若干の不足が続いている。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲8.6%（令和6年9月1日～令和6年10月20日分 今期 24,365千円 前期 26,662千円）だった。9月1日～末日分は▲9.0%（今期 15,077千円 前期 16,559千円）。10月1日～10月20日分は、▲8.1%（今期 9,288千円 前期 10,102千円）。9月分に続き、10月分も前年割れの売上になりそうである。タクシー料金単価は令和5年8月から10%値上げ改定されているが、諸費用の値上がりに、給与収入も企業収入も追いつかない等で、需要が減少していると思われる。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。9月分については、周南▲7.7%、下松▲7.5%、光▲10.6%、防府市地区が▲7.0%で、組合員の全域では▲8.4%、地区外（員外）▲14.1%、合計▲9.0%（▲1,483千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）や為替によって変動する。燃料単価は、10月分は前月より下がり、前年よりも▲4円/ℓになった。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。個人タクシーも高齢での廃業が進む。（後継者が出ないので減る一方）。法人も実働車両が大幅に減少している。乗務員さえ確保できたら、もっと売上が増やせるのだが、と言う意見も聞くが、日曜や月曜日は大幅に少ない稼働台数でも充分で、配車室人件費がもったいない位だそうである。令和5年8月に運賃改正がなされたが、令和6年8月から、運賃改正の効果がなくなり、売上減少、需要減少がはっきり見えるようになった。郵便料金の値上げや最低賃金の引上げ等もあり、厳しい経営状況が続きそうである。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>10月は、ほぼ平年並みに推移している。労働災害防止は勿論のこと、感染症対策に一層の注意を払わなくてはならない時期となった。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他</p>	<p>介護事業所では人材不足が慢性化している。10月より山口県でも最低賃金が上がり、更なる人件費の上昇により、経営状況が悪化している事業所が多い。特に、社会福祉法人や医療法人以外の民間企業は厳しい経営が続いている。また、提供する食事や原材料・エネルギー価格の高騰も続いている。今後の事業経営に不安があるとの報告が多く寄せられている。</p>	<p>介護事業</p>